

施策番号 2-1-2	施策名 社会教育の推進	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり			
		政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実			
	主管課	生涯学習課	課長名	日下勝祐	内線	451
	施策関係課	教育推進課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果
学習機会や場の提供など学習環境の充実を図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民	・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学ぶことができる学習環境を整備する					町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組み、人と人がふれあい、心豊かに充実した生涯を過ごせるまちづくり
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度実績	2021年度実績	2022年度目標	
① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	生涯学習課(旧社会教育課)調べ	人	1,313	881	595	419	1,190	
② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	39.1	75.4	80.0	76.0	45.0	
③								
④								
成果指標設定の考え方	①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)							

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算	2020年度決算	2021年度決算
施策事業費(千円)	148,955	115,606	141,350	113,464
人工数(業務量)	3,4688	3,7783	3,5428	3,5343

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察		
①2021年度の成果評価(前年度との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由 ①社会教育事業全般において、コロナ感染症の影響により中止又は制限を設けた大幅な事業規模縮小を余儀なくされ、十分な成果を上げることができなかった。特に児童生徒を対象とした体験・交流事業への影響が大きかった。 ②コミュニティ・スクール事業への参加が増加した一方で、公民館、図書館、ふるさと歴史館の各種講座など、コロナ対策による中止、縮小が大きな影響を与えたものと思われる。
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由) 児童生徒の社会教育事業への参加については、体験・交流事業の再開とジモト大学事業など地域コミュニティの活性化にもつながる事業を積極的に推進する。 また、生涯学習機会の充実では、特にコミュニティ・スクールでの地域住民の参画を積極的にコーディネートすることや、社会教育施設における各分野ごと、年齢層等に応じた各講座等の実施、町民活動組織との連携・協働する事業を推進する。
(2) 施策の成果評価に対する2021年度事務事業の総括		
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業 少年教育活動運営事業 中学生国際交流事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	社会教育事業全般にわたり、昨年度から引き続きコロナ感染症の影響による事業の中止や大幅な事業規模の縮小となるものが多く、実施できる事業が限られ、十分な学習機会の提供が図れない結果となった。 また、R3年度をもって勤労青少年ホーム及び集団研修施設「かつこう」の社会教育事業としての供用を終えたが、これらの影響が生じないよう、今後の社会教育事業の実施において考慮する必要がある。 大きな成果と今後更に充実させるべき事業は、コミュニティ・スクールにおける地域学校協働活動である。事業の実施にあたり地域のボランティアの皆さんや各組織、団体の方々の参画により、児童生徒の育みを支えることはもとより、地域コミュニティの活性化が図られる事業であることから、より充実した内容となるよう取り組む必要がある。	

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)							
担当課 評価	児童生徒の社会教育事業への参加については、コロナ禍により大きく減少したが、人財育成事業の芽室ジモト大学事業への着手、地域コミュニティの活性化に繋がるコミュニティスクール活動の充実に努めた。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○

A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習において「いつでも、どこでも、誰でも」が自由に学べる学習環境の整備 →学習形態の進展・多様化に対応するためのデジタル学習への対応 ・子ども会活動の減少、高齢者学級「柏樹学園」の課題 →子ども会)地域活動や広域での連携、世代間交流の実施などによるコミュニティ活動の推進 →柏樹学園)学習プログラムの見直しと学園生確保策の再考 ・コミュニティスクールやジモト大学事業の取組みによる地域コミュニティの活性化、地域教育力の向上 →地域ボランティア活動の推進
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの取組みについて周知方法の多様化 ・子ども会活動の継続支援(単位会の減少や役員のなり手不足) ・ふるさと歴史館の事業充実(各種講座、特別展示等) ・図書館の機能充実、電子図書の導入

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育推進中期計画(H31-R4)の着実な推進 →コミュニティスクールの充実。地域学校協働活動の全町的な取組みと学校運営への明確な位置づけ。地域コミュニティの活性化。 →ジモト大学事業による人財育成。人的ネットワーク形成。地域コミュニティの活性化。 →高齢者学級の学習プログラムの随時見直し。通園のための交通手段の確保。 →各種体験、交流事業の再開 ・社会教育施設の有効活用と維持管理 →公民館機能の発揮(各種講座、イベント等の再開と推進強化) →図書館機能の再点検(学習環境の在り方と電子図書の導入) →ふるさと歴史館の運営方法と事業の充実(各種講座、体験会、特別展示等の実施)
--

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	担当課評価同様に、維持したとする。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。特にジモト大学やコミュニティスクールの取組を、町民全体に浸透させてください。	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	成果指標①はコロナの影響で致し方なく、②は目標を達成しており、ジモト大学やCSの取組は、施策方針から前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・4. に記載のデジタル学習について、GIGAスクールの対応として、公共施設で利用しやすいようにしてほしい ・柏樹学園の生徒数が減っている、まだ働いている人もいることから、今後の在り方を見直すべきだと思う ・ふるさと歴史館の運営方法について検討してもらいたい ・町民の自発的な取組に対して、町としての予算支援、情報提供を伴走化してほしい 	A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した					